

住友ベークライト株式会社 2027 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会

主な質疑応答議事録

日時 : 2026 年 8 月 3 日 (月) 15 時 00 分 ~ 16 時 30 分

説明者: 取締役常務執行役員 平井 俊也

【全社的な事項】

Q: 中東情勢・原料高影響（期初見込みマイナス 20 億）の現状と着地見通し

- 当初のマイナス 20 億は不透明な中で置いた見立てで、現状もどこまで影響するかは依然として不透明。ナフサに関しても、一時期想定外の高水準になり、売価転嫁が完全かは読みにくい状況にある。
- 一部の前倒し需要から在庫調整による数量面の反動リスクもあり、着地は未だ不明。
- 盆明け以降などで状況を見て、地政学リスクの落ち着き等により見え方が変わる可能性がある。ただし、売価転嫁の進展や確実な需要増もあることから、現時点では極端に弱気に見る必要はないと考えている。

【半導体関連材料セグメント】

Q: 封止材が強い理由を「用途×地域」で詳しく知りたい

- 伸びの中心は AI 関連（特にパワーデバイス周辺）で、データセンター増設などが勢いの背景にある。
- 先端向け（MUF 等）も伸びを見せ始めている一方、中華スマホ向けは小休止しているが、車載・通信・家電など幅広く底堅く全般的に伸びている。
- 中国: 以前からの好調に加え、さらに需要拡大。
- 東南アジア: 車載用途の回復が本格化。

Q: AI データセンター向け封止材の成長加速要因（需要・付加価値・採用拡大?）

- 要素としては需要・付加価値・採用拡大の全て入っているが、最も大きいのは、データセンター増設がグローバルに進み需要が増えている点にある。それに伴い GPU 周辺でパワー半導体が多用されるため、数量が増えている。
- 高信頼性が求められる領域で、当社実績が評価され、優先的に採用されている。
- 物性面では高熱伝導が重要で、付加価値要素が当社への追い風になっている。

Q: 月次（4~6 月）の推移／駆け込み需要と反動減の有無について

- 4~6 月は特定月だけが突出したのではなく、平均的に高い伸びが継続。7 月も大きく需要が落ちた兆しはない。
- 調整局面がいつ来るかは見えていないが、中華スマホの小休止が回復すればスマホ用途でも上乘せされる可能性がある。

- 全体としてまずは供給を確実にすることが重要だと考えている。

Q：封止材値上げ（6月出荷分）の効果は2Qから強く発現し利益が増える見方でよいか

- 値上げは原則として原材料コスト上昇の転嫁である。
- 競争環境の中で顧客からの価格プレッシャーもあり、簡単に値上げし続けられるわけではない。
- 6月出荷分の改定が2Q以降に反映する面はあるが、利益は数量増、品種構成の改善、生産合理化を含め総合的に見ていく必要がある。

Q：中国の追加の生産能力増強の投資額はどの程度か

- 為替影響（円安・人民元高）はあるが、今回の増強は50億円まではいかないと見込んでいる。

Q：中国勢台頭を踏まえた競争環境・シェア動向の見通し

- 当社の優位性として製造レシピや顧客での使われ方に関するデータ蓄積が厚い。
- 中国で長年事業を行ってきた背景があり、現地で顧客に密着した地産地消型の即応体制を構築している。
- 中国ローカルの技術力向上は進むが、当社も同等かそれ以上のスピードで顧客要求に 대응しており、容易に追いつかれる状況ではないと認識している。
- 競争は今後も厳しくなるため、優位性維持に向けた継続的な対応が不可欠だと考えている。

Q：モビリティ戦略3商品の売上の伸びと内訳

- モビリティ戦略3商品はYoY+36%, QoQ+18%
- 牽引はモーター磁石固定材（+40%超）：HEVが好調（日本・北米）、中国ローカルにも拡販。
- ECU一括封止材：欧州中心。回復基調で、7～8月以降、更なる伸長を見込む。
- パワーモジュール封止材：HEVが好調（日本・北米）、中国ローカルにも拡販。
- スターター封止材：ロボット（手など関節部のアクチュエーター等）の用途で採用が拡大。

Q：京セラのケミカル事業取得のスケジュールと業績影響

- 統合準備は進行中で、10月30日に譲渡契約というスケジュールは計画通り進行中。
- 連結後の利益影響は、両社の経理制度の整合などが必要で、現時点で数値を明示するのは難しい。
- 11月以降に利益寄与が見込まれるが、業績予想には織り込まれていないため、基本はア

ップサイド要因になる。

【高機能プラスチックセグメント】

Q：前倒し需要と値上げ先行の反動減リスクについて

- 前倒し需要はある程度はあるが、アジアは堅調で影響は限定的な見方。欧州は回復 + α で前倒しが含まれている可能性があるので注視している。

Q：事業利益率 10%の持続性について

- 北米の不採算撤退（構造改革）をやり切ったことが利益率 10%に大きく寄与した。
- 新規製品かつ高収益品（COPLUS®等）が伸び、利益率改善の確度が上がっている。

Q：限界利益率が高い背景（構造的な変化、一過性か？）

- 北米の構造改革（不採算品の整理）が効いている。数量減も収益性向上でカバーし、構造改革が作用している。
- 構造改革効果は今後も継続見込みだが、数量が増えると固定費（人員等）が増える局面も想定される。

Q：銅張積層板の値上げ幅・背景について

- 放熱シートなど材料値上がり分も含めて転嫁が進んでいる。コスト転嫁 + 適正な利益確保ができています。

【クオリティオブライフ関連製品】

Q：QOL の前倒し需要の反動減リスクについて

- 医薬品包装は薬不足・薬価要因で不透明。食品包材や一部の産業機能性材料ではナフサが不足する可能性があり、前倒し需要が含まれていた可能性はある。

以上